［論文］

身体表現遊びの指導ノートを活用した指導法の授業の成果

塩崎　みづほ

Results of teaching method classes using instructional notes on body expression play

Mizuho Shiozaki

キーワード：身体表現遊び、指導法、指導ノート
Key Words：body expression play teaching method intryctional notes

要約：幼児期における身体表現遊びは子どもたちにとって楽しく、充実した活動であるが、言葉がけや指導の流れがわかりにくく、現場で実践する機会が少ない傾向が見られる。そこで、養成校において指導法の授業の充実や開発が求められると考える。そこで本研究では、指導ノートを活用した小グループでの指導実践を取り入れた授業を行い、学生の身体表現遊びの意識について調査し、指導法授業の開発の示唆を得ることを目的とした。結果として、身体表現遊びの指導のポイント、言葉がけの大切さ、題材を見つける力について学びが深まったこと、指導ノートを活用することで、指導の流れや言葉がけがスムースに行うことができるといったことが明らかになった。課題として、学生自身が表現するための体づくり、指導者として支援する力を養成する授業内容の再検討、指導ノートにおいては、具体的な言葉がけ事例の作成を行う必要があることが明らかになった。

Abstract：Playing body expression in early childhood is a fun and fulfilling activity for children, but it is difficult to understand the flow of words and instruction, and there are few opportunities to practice it on site. Therefore, it is important to improve and develop teaching methods at training schools, and in this study, we conducted a class that incorporated teaching practice in a small group using instructional notes, and investigated students' awareness of body expression play. The purpose was to get suggestions for the development of teaching methods classes. As a result, learning about the teaching points of body expression play, the importance of wording, the ability to find the subject has deepened, and the use of instructional notes enables smooth instruction flow and speaking. . As a task, it became clear that it was necessary to create examples of specific words in the creation of a body that students can express themselves, a re-examination of lesson content that fosters the ability to support as an instructor, and instruction notes .

１　はじめに

幼児期は、体を伸び伸びと使って自由に表現するのを楽しむのに最適な時期と言える。ダンスは、小学校ではもちろん、中学校・高校において男女共修・必修になり、生涯学習として根付いてきているとみることができるだろう。一方現場での身体表現遊びの活動は未だ充実されていないと言う声が、研究会等で聞かれる。本学で実施した現職保育者研修会の参加者に質問した際にも、実施頻度が少ない状況が見られた（資料１）。実施できない理由としては、なかなか時間がなくて行う機会がないと言うもの、さらには、表現遊びの仕方がわからないといった声が挙げられ、指導法に悩む状況にあることがわかった。

さて、幼稚園教育要領の表現領域の内容の取り扱いには、

「豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で、美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに出会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気づくようにすること」[1)]

とある。心動かす出来事や感動、こういった事柄は身近にあるということ、小さな出来事かもしれない。しかし、保育者はその出来事を身体表現遊びの題材にできる点に気づくことが大切ではないだろうか。幼児は、実際に体験した内容を体で表現すると、生き生きとのびのびとした動きで答えてくれる。芋掘りも絵に描くだけではなく、その体験を生かして身体表現活動へとつなげていくことで様々な表現方法に気づき、感性が豊かになっていくと考えることができるだろう。それら身体表現活動の題材に気づく力は、保育者にとって必要な力のひとつではないかと考えている。題材への気づきがあり、そこから子どもたちにそのイメージを広げさせるような保育活動へと展開していく力が、保育者には求められる。養成校としては、その気づき、指導法を身につけた保育者を輩出していくことで、幼児期にのびのびとした身体表現活動が現場で実践され、広まっていくものと考えている。そうした考えから、身体表現活動の指導法について特に苦手とされる、言葉がけ（子どもへの問いかけ）について研究を行なってきた。前掲では、指導ノートは有効であることが示唆された[2)]。今回、授業内容を見直し、指導ノートのより良い活用方法について検討していくことで、授業内容・方法の開発への示唆を得ることができるのではないかと考えた。

２　本研究の目的

本研究は、保育の現場で活用できる身体表現遊びの指導力をつけるために、小グループによる指導法の実践やディスカッションを取り入れた内容と、指導ノートを活用した指導実践を組み込んだ授業計画を作成し、学生の指導に関する意識について調査し、また指導ノートの活用について検討することによって、指導法の授業の充実・開発に向けた示唆を得ることを目的とした。

３　研究方法

（１）　対象

① 対象とした授業の目的

幼児教育学科 2 年次における必修授業である「幼児体育」では、幼児期の発育発達の特徴を理解し、適切な運動遊び、身体表現遊びについて学び、さらに指導法について実践的に学ぶことを目的とした授業である。

② 対象学生

幼児教育学科１部２年生 110 名、2 部２年生 58 名である。

質問紙調査は、クエスタント[1]で作成し、スマートフォンにて授業内で回収を行った。質問紙を行った時期は、それぞれ身体表現遊びの最終授業後にその場で実施した。

１部 2 年生　2019 年 7 月 19 日～22 日　　2 部 2 年生　2019 年 10 月 7 日～21 日

（2）身体表現遊びの指導法に関する授業の実践

授業内容として、先行研究で行なっている指導ノートを活用する。さらに今年度は、宮本の研究[3]を参考に、小グループにおける授業シミュレーションを取り入れた内容を盛り込んだ（表１）。

身体表現遊びの題材は、「身近なものを使って」、「生活の中から」、「絵本から」、「架空の世界から」の４つの分野からそれぞれ選択し実践した。

１回目、2 回目の授業では、主に指導教員が保育者として、学生は子どもとして身体表現遊びを体験し、自己の体を解放して楽しむことを目的として行った。授業の中では、指導者練習として、２人組でしんぶんしの動かし方の実践も行なった。自分たちで動かすことで、しんぶんしの特徴を捉えることができ、どういった動きを引き出すことができるかについて学ぶことができる。授業後半では、日常保育での活動を発展させて、運動会用ダンス作品へと持っていくことのできる事例について実践した。創作活動を行うことで、「創作–発表」する楽しさを体感できること、また指導教員が創作活動中にアドバイスを行なっていくことで、保育者としての支援のあり方について学ぶことができる。

次いで 3、４回目の授業では、前半でもう一度指導教員が指導者としての模範を示し、その後、４～５人グループに分かれ、一人が保育者となり指導を行い、指導法について体験的に深めていく授業を行った。指導者練習では、太鼓を使用しての太鼓の叩き方、タイミングについて学ぶ実践と、主に子どもに問いかけながら行う活動の実践を行った。

５、６回目の授業では、先行研究で行った言葉がけ分類と指導の流れについて説明をし、それをもとに、幼児の身体表現遊びの様子を学ぶためビデオ視聴を行なった。その後、２人組で指導ノートを記入する作業を行なった。題材は、学生たちが選び、１グループ 10 分の主活動とした。模擬保育の前に、指導教員が全グループの指導ノートを見て、留意点や流れ、足りない問いかけについてコメントを口頭で促したり、付箋で伝えた（資料２）。

７回目の授業では、４ペアのグループに分かれ、２人が指導ノートに沿った実践をし、他の学生は子ども役になる、模擬保育形式にて行った。グループの中から１名は書記になり、指導ノートを見ながら、追加されていた言葉がけや抜けていた部分などを記入する役割を作った。実践後は、それぞれのペアの

[1] マクロミルが提供しているウェブアンケート作成サイトのこと。

模擬保育について、実践者のコメント、受けた側からのコメントをグループ内で共有した（資料３）。その後、保育の運び、問いかけが優れていたペアの活動をそれぞれのグループで課題点を修正し、発表を行い、実践のまとめを行なった。

表１　授業内容

回	授業内容	指導者としての練習
1	しんぶんしを使って ・しんぶんしになって動こう ・お芋掘り	しんぶんしの動かし方
2	架空の世界　「忍者」 生活の中から「おもちゃに変身」 絵本から「うちにおいで」 小さな表現を集めて運動会作品へ「ひょっこりひょうたん島」	島探検の動きを考える
3	忍者	太鼓の活用方法
4	実体験した活動での表現遊び「思い出列車」	子どもとの問いかけと、受容の声がけ
5	身体表現遊びの指導法の講義 指導ノート作成	指導の流れと、問いかけについて学び、指導ノート作成を行う
6	指導ノートをもとに実践練習	２人組で指導ノートを書き上げ、指導のリハーサルを行う
7	グループごとに発表	グループで模擬保育を行う。実践後、グループにてディスカッションを行い、仲間の保育についての講評の仕方や、どんな指導法が良いのかについて学びを深める

（３）調査と分析

①授業後の指導法の意識について

身体表現遊びの指導についての質問を９項目挙げ、「とてもそう思う」「まあそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の４段階評価で回答を得た。また、実践後の身体表現遊びの感想について、回答を求めた。

③　指導ノートについて

指導ノートが役立ったかどうかについて４段階で評価をしてもらい、その理由について自由記述にて回答を得た。さらに、指導ノート内に挙げられている欄で良かったと思う項目について、順位をつけて回答を求めた。

4　結果と考察

（1）　授業後の指導法についての意識調査

身体表現遊びの授業終了時に、学生にアンケートを実施した。有効回答数は、98 名であった。身体表現遊びの指導に関する事項について９項目を挙げ、それぞれ４段階で回答を得た（図１）。

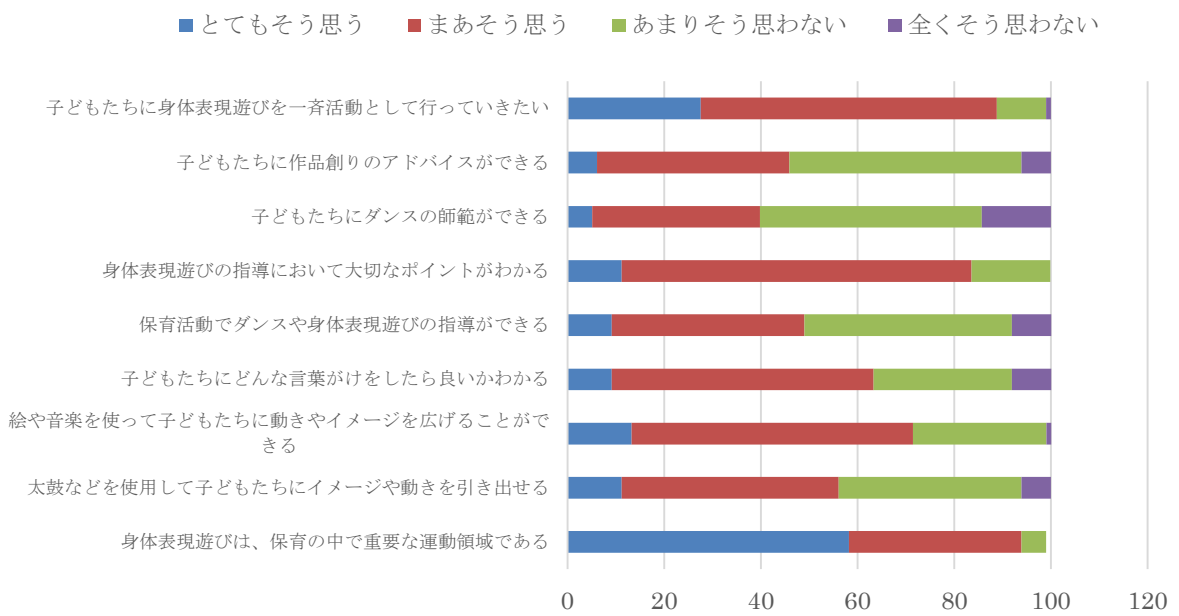


図１　　指導に関する意識についての項目

「身体表現遊びが、保育の現場で重要な運動領域である」、また「一斉活動としても今後行っていきたい」については、８割強の学生が肯定的な回答をしている。こうした結果から、身体表現遊びが、幼児期に大切な活動であること、幼児にとって楽しい活動であることの理解はできたものと捉えることができる。また身体表現遊びへの興味関心、実践への意欲についても喚起できたものと考えられる。子どもたちと身体表現遊びを行う上で、「太鼓の使用」や「音楽、絵の活用」についての認識も高まったことが見てとれる。指導練習として実践する機会を設けたことも効果があったのだろう。今後現場で実際に指導する際に関わってくる内容としての、「指導においての大切なポイントがわかる」という項目では、高い割合でとてもそう思う、まあそう思う、と回答している。身体表現遊びの指導法がわからないという現職保育者の意見もある中、指導におけるポイントを理解できたということは、大きな成果であると考えられる。しかしながら、「指導ができる」の項目については、やや自身のなさが伺える。しかし、「どんな言葉がけをしたらよいかわかる」の項目では、半数以上の学生が肯定的な意見であった。できる、と言い切るには自信がないものの、言葉がけについてのポイントは理解している様子が伺える。今後、実践を繰り返し行っていくことで、自信がついていく可能性が大いにあると考えられる。

「子どもたちにダンスの師範ができる」、「作品づくりのアドバイスができる」の２項目については、半数以上がそう思わないと回答している。自由記述にもあったが、保育者自身の表現力、様々な動きができる技術的側面についてもう少し時間が持てると良いことが分かった。作品創作についてのアドバイ

スについても同様であり、作品創作をする時間を持ち、互いに見合う機会、さらにはコメントをし合う機会をもっと増やす工夫が必要だろう。

実践後、以下の８項目について当てはまるものすべてに丸をつけてもらった（表２）。指導ノートを活用してもなお、「指導の声かけが難しい」という項目が最も多く上げられた。次いで「動きを広げるようにするのが難しい」であった。この点に気付けていることは大変効果があったと感じている。動物一つを取り上げても、四つ這いばかりではつまらない。速く四つ這い、寝転がる、獲物を捉える動きなど、子どもとのやり取りの中、あるいは保育者の言葉がけで広がる可能性を大いに持っている。実際に指導することで、この点について実感し、子どもへの問いかけの重要性について認識できた点は、今後の保育活動に活かしていくことができるものと考える。次いで、「指導の流れの組み立て方」であった。言葉がけ、指導の流れについて自信がないのが身体表現遊びの特徴と見ることができた。

表２　実際に指導して感じたことについて（複数回答可）

項目	%
指導の流れを組み立てるのが難しい	71.4
指導の言葉がけが難しい	84.7
雰囲気作りが難しい	48
やることが多くて大変	12.2
動きを広げるようにするのが難しい	78.6
仲間の表現を見るのが楽しい	55.1
指導していて楽しい	40.8

さらに、実践後の感想を自由記述で回答を得た（表３）。実践後の感想でも、「言葉がけが難しい」「子どもの動きを広げる言葉がけの難しさ」について挙げている学生が多かった。今回の授業では、子どもへ問いかけながら、言葉をかけながら実践していくことの大切さについて伝えてきた。だからこそ、気づいたものと捉えることができよう。そして、実践してみることで気づいたと言えよう。今後実践していく上でも、留意しながら行っていくと考えられ、身体表現遊びの指導ポイントの理解にもつながっているとみることができる。しかしながら、やはり言葉がけの難しさが引っかかっている点は、上記の項目からも明らかである。もう少し自信が持てるような工夫が必要であるという課題も見えた。

「仲間の指導を受けることでを学べた」といった意見も挙げられていた。今回の授業では、できるだけ学生が指導者になる機会を設けることに重点を置いた。実践して気づくことへの配慮もあるが、仲間の指導を見ることで、やりやすい言葉がけや、動き出しにくい指導の仕方を経験することができる。その良さについて回答している学生も見られ、多くの発見と気づきを持てる授業内容であったと考えられる。

計画の大切さに気づいた学生もいた。指導案を書いた後、実際の指導の流れは再度考えないとスムースにはいかないという点に気づける良い機会になった点も効果があったといえるだろう。その他では、「やってよかった」「仲間や先生から上手いと言われて、自信がついた」「課題が見つかった」「相手と役割をうまく共有できなかった」等の回答があった。

表３　実践後の自由記述

抽出したグループ	%
言葉がけの難しさ	33.7
動きが広がる声がけの難しさ	20.4
計画の大切さ	20.4
仲間を見て学ぶことができた	5.1
雰囲気作りをする難しさ	5.1
全体的に難しかった	5.1
自身の表現力を高めたい	3.1
太鼓などの工夫をもっとできるようになりたい	3.1
子どもを受け入れることの大切さに気づいた	2
時間配分の難しさ	2
活動のつなぎ目の難しさ	4.1
その他	8.2

（２）指導ノートについて

指導ノートについて「役立ったか」というの質問では、かなり役立ったが 62.2%、まあ役立った 36.7%であり、このシートを作成してから実践する方が有効であることが明らかになった（図２）。

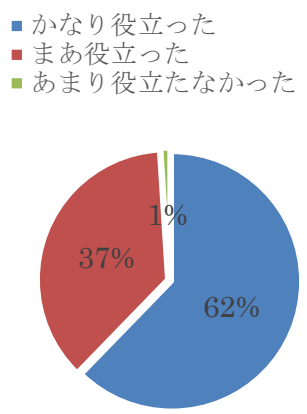


図２指導シートは役に立ったか

役立った項目について、順位をつけてもらった（表 4）。１位でもっとも高かったものは、「保育者の言葉」の欄(44.9%)が一番多く上がっていた。２位では、「保育者の動きや声のトーン」(23.5%)、３位には「引き出したい動きやイメージ」(22.4%)があげられた。引き出したい動きやイメージの項は、今回の改訂版のシートに追加した項目である。ねらいと動きの内容があることで、言葉がけを考える上でのヒントになるということが明らかになった。逆に、流れ記号や言葉の記号については、有効活用されていない。前回の研究結果から、言葉がけの内容を確認する上で必要と考察されたため、この項目を設けた。よってシート自体に言葉がけの記号を載せるなど有効に活用できる工夫について再検討する必要があるだろう。

表 4　指導ノートで役立った項目欄

役立った項目欄	1 位（%）	2 位（%）	3 位（%）
活動のねらい	13.3	9.2	16.3
引き出したい動きやイメージ	16.3	19.4	22.4
流れ記号	3.1	4.1	9.2
言葉の記号	2	5.1	0
保育者の言葉	44.9	16.3	13.3
保育者の動きや声のトーン	9.2	23.5	13.3
子どもの動き	5.1	11.2	15.3
環境構成	1	5.1	1
時間	1	4.1	8.2
音・曲	4.1	1	9
備考	0	1	1

表 5　指導シートの感想についての自由記述

抽出したグループ	%
流れが把握できる	35.1
声がけができる	20.6
実習や現場で生かせる	15.5
スムースにできた	10.3
課題が見つけられる	10.3
ねらい、動きの引き出し方がわかる	3.1
その他	12.4

指導ノートの役立った理由を自由記述で回答を求めた（表 5）。

ここでの理由として最も多く挙げられていたのは、「指導の流れを把握できる」といった内容の回答であった。実際に喋る言葉がけを書き出すことで、どう動くのが良いのか、どう引き出したら良いのかについて事前にシミュレーションでき、流れが頭に残るのでやりやすかったという声が上がっていた。次いで、「声がけがやりやすい」という回答があげられた。興味深い意見として、「書き出すことによって終わった後に見直しができ、課題点が見つけられる」といった声もあった。グループでの実践では、記録係りを作り、指導ノートを見ながら、抜けていた言葉がけであったり、不意に言った言葉がけから動きが広がったなどを記入し、実践後のグループディスカッションで、そのノートを見ながら意見交換をし、見直す時間が取れた点も効果があったようだ。また、「実習や現場で活かしていきたい」といった声も上げられた。実際に指導案は提出しても、指導ノートのように指導言語について書き出すことを行わない学生が多い。実際には、指導案はスタートラインに立っただけであり、その流れを受けてどういった指導言語、子どもとのやりとり、動きが必要かについてはさらに練っていかなくてはならないのが現状である。そういったことの大切さに気づけたというのは、大きな意義があるものと考える。

５　結論

本研究は、保育現場において子どもたちと豊かな身体表現遊びを実践できる指導力を身につけるために、小グループによる簡単な実践や、指導ノートを活用した模擬保育を行い、学生の身体表現遊びへの関心、指導法についての意識について分析を行った。以下の点が明らかになり、授業内容や指導法、指導ノートの活用法等の開発に向けて示唆を得ることができた。

（１）明らかになったこと

①授業内容・方法について

幼児にとって身体表現遊びが重要な運動領域であり、楽しい活動であることについての理解は深まった。また、指導の際には、問いかけながら様々な言葉がけがポイントになること、動きが広がるにも保育者の言葉がけが重要になることについて理解することができた。さらに、題材についても、音楽や絵から広がっていくこと、太鼓を用いることで雰囲気をつかみやすくなることなども体験的に学ぶことができた。

②指導ノートの活用について

指導ノートを記入することで、難しい言葉がけについて事前に考えることができ、指導の流れを把握し、スムースに実践することができる点に気づけた。また、準備の大切さについても気づくことができ、今後実習や現場に出た際にも生かすことのできる力を身につけることができた。

（２）課題

保育者になる学生たち自身の表現する体づくり、創作の仕方といった技術的側面を養う内容を、授業に盛り込む必要性があることが示唆された。また、指導者という立場になって、創作活動中におけるアドバイスの要点や行い方、発表後の講評といった言葉がけについても実践の中で取り入れる工夫が必要だろう。

また、指導ノートの活用として、指導の流れと言葉がけ記号のような書きにくい欄の記入方法の工夫。言葉がけの難しさをもう少し払拭できるよう、子どもの動きが広がる言葉がけの実際例や、褒め言葉の種類やタイミングについて見やすい表を作成し、活用できるようさらに改良を行う。そして、学生が身体表現遊びの指導に自信が持てるよう、さらに充実した授業内容にしていきたい。

引用参考文献

１）田島美穂（編）（2017）平成 29 年告示幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領.（株）チャイルド社（東京）

２）塩崎みづほ(2017)幼児の身体表現遊びにおける言葉がけに関する研究.秋草学園短期大学紀要(34) pp.111-123.

３）宮本乙女（2018）小グループで指導法を学び合う活動を取り入れた「ダンス指導法授業」の成果.日本女子体育大学紀要（48）pp.111-122.

資料１　講習会参加者への身体表現遊びに関する質問紙調査

１．調査の概要

調査時期　　2019 年２月 6 日

調査対象　　本学実施の現職保育者研修会　身体表現遊びの講習参加者

調査方法　　質問紙調査

回収数　　78 枚

２．調査結果

１）対象者の属性

①性別　　男性５％　女性 94%　未回答 1%

②年代　　20 代 68%、30 代 15%、40 代 10%、50 代 6%、未回答１％

③保育歴（%）

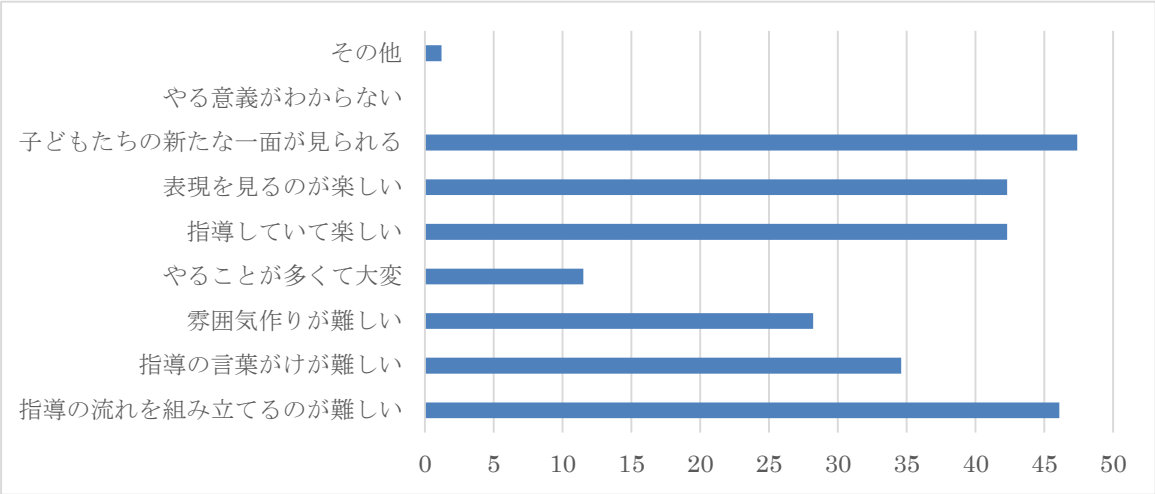
1 年	2 年	3 年	4 年	5 ～7 年	10～17 年	10～29 年	未回答
25	15	10	11	11	15	8	5

２）身体表現遊びを設定保育として行う頻度について（%）

よくやっている	5.1
まあやっている	28.2
あまりやっていない	51.2
全くやっていない	15.3

理由：時間がなくてできない、リトミックをやっている、苦手、知っている活動がない、進め方がわからない、進め方が難しい、園の方針と違うのでやれない、行事で行っている、表現力を伸ばしたい

３）身体表現遊びについて一番近いものについて（３つまで回答可）



資料２　指導ノート記入例

活動名	「おべんとう」	クラス(年齢) 歳児 5	人数 25		NO.1
担当者名		実施日　年　月　日			
活動のねらい	体を使って表現することを楽しむ				
引き出したい動きやイメージ	転がる止まるなどのメリハリがある動き。				

時間(分)	曲・曲	流れ番号	記号	保育者の言葉・動き	保育者の動きや声のトーンなど	子どもの動き	環境構成	備考
0.00		①	b	先生のところに集まって。 集まったら座るよー。	大きい声で小さく集まる様に伝える。	集まる。	ホール	
2.00				先生お話してもいいですかー？	問いかけるように。	いいですよ！ はい！		
		②	a	昨日のお昼ごはんは給食だったっけ。 じゃあみんなのお弁当には何が入っていたかな？	おだやかに話す。	お弁当ー！ 各自入っていたものを言う。		
			c	言っていたものと聞き取りできる範囲で確認をする。	元気よく明るく			
5.00		③		「うん！たまご焼きも良いねー！」 「あっ！たこさんウィンナーもめるね」 等 今日は、体を使って皆でお弁当を作りたいと思います！ まず、何から作ろうかな？ ✕ じゃあおにぎりから作ろう！		話を聞く。 返事をする。 作りたいものを話す	にぎるまねをする 手のひらでごはんをにぎるようなまねをする	
		④	d	皆おにぎりに変身！	魔法をかけるように。	おにぎりに変身		
			f	色々形のおにぎりがあるね！				
			g	へちゃんのおにぎりはかわいいね！（形をほめる）				
7.00		⑤		じゃあ次はハンバーグを作るよー。 皆はお肉になるよー。 先生はおにくをこねていくよ！ ねねねね・ぎゅっぎゅっ 次卵を入れてたまごー！卵を入れて「バター」 もう1度こねるよー！ くり返し。 塩・こしょうをして ねねね「いい味」 じゃあくるくるめくるー。もみもみ手からぱーの「どん」 先生、ハンバーグの形をつくっていくよ どんな形になるかなー？ ハートにしようかな。くるまもかっこいいな	ハンバーグ作ったことあるかきいていた まねまねしていた◎ くるくるめくる前にのばしたらいいかきいていた 上手に空気ぬけたねと言っていた	ハンバーグに変身		

資料３　　ディスカッション用紙の例

身体表現遊びロールプレイ　ディスカッション用紙　５分くらいでまとめよう

実践者名
題材名　　ゆうえんちへいこう
実践者の感想、反省点 　声が小さくなってしまった。強弱がうまくできなかった。
受けた人からの高評価コメント 体をたくさん動かすことができた 曲が流れているから、世界観に入りやすかった ちゃんと褒めていた 保育者が棒立ちになっていなかった
受けた人からの課題コメント 声の大きさをもう少し考えられると良い コーヒーカップの時の保育者が同じ場所にいたので、それぞれ分かれて子どもを見る方が良い

実践者名
題材名 　　おべんとう
実践者の感想、反省点 計画通りにいかなかった。 保育者の連携がうまくできなかった
受けた人からの高評価コメント お互いに声かけしていてよかった 一人ひとりをちゃんと褒めていた ハンバーグを作る活動が楽しかった 最後、お弁当箱に入れるところがよかった
受けた人からの課題コメント 見通しのある声がけ 保育者ももう少し子どもと一緒に動く